

教員名	水野 勲 (MIZUNO Isao)
所 属	文教育学部人文科学科地理学講座
学 位	博士 (理学)、東京都立大学、1998 年
職 名	助教授
URL/E-mail	<a href="http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/staff/p_mizuno.html/">http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/staff/p_mizuno.html/</a> mizuno@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

集積 / 地理的モデリング / 職住関係 / 都市空間 / 韓国

## ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・水野 勲(2005): 「エントロピー最大化モデルのアナロジーとレトリック」, お茶の水地理 45, pp. 16-31.
- ・水野 勲(2005): 「住まいと通勤」, COE ジェンダー研究のフロンティア (お茶の水女子大学) 編『家族・仕事・家計に関する国際比較研究: 中国パネル調査 第1年度報告書』, pp. 95-102.
- ・水野 勲(2005): 「引越し履歴と住宅」, COE ジェンダー研究のフロンティア (お茶の水女子大学) 編『家族・仕事・家計に関する国際比較研究: 韓国パネル調査第2年度報告書』, pp. 56-61.

## ◆研究内容

1. COE ジェンダー研究のフロンティアによる韓国と中国のパネル調査データを用いて、都市空間における職住関係、特に居住、通勤、引越しについて、性別、年齢、配偶関係、家族構成、就業形態などに注目して分析し、2冊の報告書に分析結果を載せた。その成果は、人文地理学会大会および家計経済研究所パネルカンファレンスにおいて発表した。
2. 九鬼周造の著作をたよりに、「偶然性」の概念を再考し、それに基づいて立地分析における「偶然性」の役割を、地域発展モデルを例にして考察した。その成果は、お茶の水地理に掲載された。
3. 著名な地理学者の自伝を集めた” Geographer’s Voices” の2論文を翻訳した。共訳書が2007年度以降に出版予定

## ◆教育内容

学部では、地理学の必修科目である人文地理学、地図学、人文地理学基礎演習を共同で担当し、地理学の基礎を講義・実習した。また、夏休み中に宮崎での4泊5日の野外調査実習を行い、年度末には調査報告書を刊行した。この他に、社会調査士の免許科目である社会情報処理、社会情報処理演習、さらに地理学の専門科目である経済地理学演習、卒論の指導を行った。3名の卒論生の指導を行った。

大学院では、博士前期の地理情報論において、ジェンダー地域統計についての演習を行い、博士後期の地域開発政策論では、アマルチア・センの『合理的な愚か者』を講読した。

## ◆Research Pursuits

---

1. I studied the home-and-work relationships like residential situation, commuting patterns, and intra-urban migration in metropolitan area, focusing on gender, age, marital status, family type, and employment pattern by using the F-GENS Panel Survey data by COE Frontiers of GENder Studies in Korea and China. The results were printed in two of F-GENS Publication Series, and were prepared in the annual meeting of the Association of Japanese Human Geographers and in the Panel Conference of the Institute of Home Economics.

2. Rethinking the “contingency” concept in terms of Philosopher Kuki’s “Problems of Contingency”, I considered the positive roles of that concept played in regional development model as a case of locational analysis. The paper is printed in the Annals of Ochanomizu Geographical Society.

3. I translated two papers in “Geographers’ Voices”, which had famous geographers’ autobiography, into Japanese. The translation book will be published in 2007.

## ◆Educational Pursuits

---

At undergraduate level, I delivered three lectures (Human Geography, Cartography, and Social Information Processing), three seminars (Human Geography Skills, Social Information Processing, and Economic Geography) and one excursion (Five days field trips to Miyazaki). I made a guidance of three undergraduate students’ thesis.

At graduate level, I had two seminars for gender regional statistics and Amartia Sen’s “Rational Fool”.

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

1. 時間地理学と生活時間研究を結びつけた都市空間の職住関係の統計分析
2. 地域分析と社会調査の接点に関する考察
3. 経路依存性を考慮した地域発展モデルの構築

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

---

- ・経済地理学における経路依存性のモデリング
- ・ジェンダーの視点による時間地理学の再考
- ・災害履歴、ハザードマップ、環境認識の研究

## ◆受験生等へのメッセージ

---

ローカルな舞台で起こる諸現象どうしを関連づけ、さらにそれらを広い文脈の中に位置づけて理解すること、既存の理論を地図や地域統計などの分析を通じて、多様性を内部に含んだ理論に拡張すること、これらが地理学の課題としてあります。そのために、私の授業がきっかけとなればよいと考えています。